



(本館概要)

- 所在地 大阪市中央区大手前二丁目
- 建築面積 約6,400平方メートル
- 延床面積 約34,000平方メートル
- 構造・階数 鉄筋コンクリート造
一部鉄骨鉄筋コンクリート造
地上6階建地下1階
- 工事期間 大正12年5月から大正15年10月
- 増 築 昭和30年(西館3階)
昭和34年(西館4・5階)

正庁の間改修工事

- 設 計 株式会社類設計室
- 施 工 株式会社大林組
- 請負金額 42,730千円
- 工事期間 平成23年6月から平成23年12月

大阪府庁舎本館

現在の府庁本館は三代目で、大阪城西側にあった陸軍用地の払い下げを受け1926年(大正15年)10月31日に完成しました。建物設計は懸賞募集による全国から81通の設計競技(コンペ)で、平林金吾・岡本馨両氏の共同設計が採用されました。庁舎の総工費384万2,600円は、当時の大阪府一般会計の年間予算規模約2,200万の約18%にあたる大事業でした。外観意匠の基調は19世紀末のセセッション(分離派)にあり、当時の格式的な伝統様式に対し、直線を用いて合理性を求めたデザインとなっています。また、明治末期から昭和初期に建設された府県庁舎の中でも壮大であり、鉄筋コンクリート構造を積極的に導入したモダニズム建築の先駆けとなりました。大正時代を彷彿とさせる歴史的な建造物である庁舎は、現在も使用されている都道府県庁舎の中で最も古い建物です。

正庁の間

正庁の間は、かつて年末年始の行事や人事発令などの式典に使用されていた部屋で5、6階の2層吹抜け空間です。近年は庁舎が手狭になったため、執務室として使用されていましたが、内装の劣化も進んでいたことから、2011年(平成23年)に竣工当時に近い姿に復元改修を行いました。室内は大正時代を彷彿とさせる壮麗な装飾レリーフが全面に施され、天井(3面構成55平方メートル)や東窓(3箇所)のステンドグラスからの光が彩りを添えています。